

「日中友好交流大会」における二階俊博・衆議院議員挨拶

平成 27 年 5 月 23 日

於：人民大会堂

尊敬する習近平・国家主席閣下、
汪洋・副総理閣下、
楊潔篪・国務委員閣下、
李金早・国家旅游局長閣下、
御列席の皆様、

日中友好の発展を熱烈に願う 3 千人を超える日本の民間大使の一行を温かく歓迎を頂き、心より感謝を申し上げます。(拍手)

3 月末、私は、ボアオ・アジア・フォーラムにおきまして習近平主席閣下にお会いした際、習近平主席閣下から、ただいまのお話にあったように、本訪中団を「歓迎をする」との温かいお言葉を頂きました。こうして日本の各地、各界を代表する同志の皆さんと共に、かくも充実をした日程で訪中を実現し、習近平主席閣下の御臨席の下で盛大なレセプションに御招待を頂きましたことを大変うれしく存じます。

日中関係を支えているのは、時々々の政治情勢に左右されない民間レベルの深い人的関係であります。こうした信念に基づき、これまで日中関係が良い時も、悪い時も、志を同じくする同志と共に、日中間の観光交流や地方交流、更に青少年交流、防災分野での技術協力等、全力で取り組んでまいりました。

今回 3 千人を超える訪中団も、まさにこうした信念に基づいての決断であり、参加者の皆さん一人一人が自らの意思で御参加を頂いており、ここに我々訪中団の民間大使としての意義があると考えております。今回の訪中団には、国会開会中の週末の合間を縫って、林幹雄・衆議院議院運営委員長を始めとする 23 名という多数の超党派の国会議員が参加しており、また、高橋・北海道知事、西川・福井県知事、荒井・奈良県知事、上田・埼玉県知事を始め、多くの地方自治体からも御参加を得ていることは、日中間の議員間交流や地方間交流の層の厚さを示すとともに、日中交流に対する日本側の熱い思いを象徴するものであります。

どのような時であっても、私はこうした交流を途絶えさせはならないと考えており、とりわけ、文化交流は日中間の交流の中でも最も重要な位置を占めております。本年の 10 月には、北京の国家大劇院におきまして、NHK 交響楽団の公演が行われることになりました。

日中友好の音楽を奏でることになっております。私は、先ほど中国の文化部の幹部の皆さんと共に、音楽会開催の調印に立ち会ってまいりました。

そしてまた、特に自然災害の多いアジアであります。アジアの諸国の中で防災協力を推進してまいりましたが、是非ともこの際、中国の国家主席始め、幹部の皆さんの御理解を頂き、11月5日を「世界津波の日」となるように提唱したいと思いますので、よろしく御理解を賜りたいと思うものであります。(拍手)

この一環として、青少年交流を推進していくことが重要であります。先ほど主席も述べられましたが、青少年は、次代を創る重要な世代であります。この前、我々は大災害を受けた時に、中国から温かい御配慮を頂きました。その際、500人の子供達を中国の海南島に御招待を頂いたわけでありましたが、私どもはそれに感謝をする意味で、100人のこの第1班の青少年達を連れて海南島にお伺いをしました。そして、子供達は打ちひしがれた中で、仙台から飛行機に乗ってお伺いしたわけでありましたが、そうした中で、中国の皆さんの温かい御配慮によって、そして海南島のあの太陽の燦々と照り輝く地域において、2日間で子供達は、元気はつらつとした子供達に生まれ変わったのであります。私は、先程来、この中国においてもいろいろな関係者と御相談をし、先ほど御紹介した知事の方々もおいでを頂いておりますので、この際、中国から少ない数ではありますが、あの時と同じように500人の皆さんを我が国に御招待をして、子供達による日中友好の実を上げていきたい、このように考えておりますが、いかがでございますか。(拍手)

ありがとうございます。多くの御同意を頂いて、我々は引き続いて、こうした民間交流を、全力を挙げて努力をしていかなければならないと思います。習近平主席閣下を始めとする中国側の皆様方からの前向きな御支持を頂きながら、共に日中関係の新時代を築いてまいりたいと思います。日中の世々代々、子々孫々の平和友好を次の世代に引き継ぐことが我々の使命であり、皆さんと共に全力を尽くして、そのことを実現してまいりたいと思うものであります。本訪中団のために御尽力を頂きました日中双方の全ての関係者の皆様方に、ここに心から感謝を申し上げ、今日こうして大変な御多忙の中から習近平主席閣下がわざわざ我々のためにこの場に足をお運びいただいたということ、我々はこのことを胸に刻んで、これからの日中関係、先程来お述べになりました習近平国家主席の御挨拶、十分意味を理解し、そしてその実現のために、実行のために我々も努力することを誓おうではありませんか。(拍手)

日中の今日まで御努力いただいた方々、私も今、習近平主席がお述べになりました中国側の人々、日本側の人々、みんな遙かに存じ上げております。その人達の御苦勞がどんなものであったかということ、私は今日御出席を頂いている日本側の代表の皆さんに是非に御

理解を頂きたいと思います。今時間もありませんから長く語るわけにはまいりませんが、私は藤山愛一郎先生にしろ、古井喜実先生にしろ、そうした方々が本当に御努力を頂き、御苦労を頂いたことを、私は遙かに若い世代ではありますが、存じ上げております。そのことからすると、我々は今、何をなさなくてはならんかということは、みんながお分かりのはずです。共に頑張っ、日中友好のために力を尽くすことを、ここに会場の皆さんと共に
お誓いを申し上げ、私の挨拶を終わらせていただきます。(拍手)

(了)